

妻には負担をかけてしまったなあ

我が家は、妻もフルタイムで働いている共働きです。

家事はほとんど妻にまかせつきりで、三人の子どもの子育ても小さいときに遊んだ程度。ようやく休日子どもと遊んでも、「自分の都合のいいときだけ」と妻から見ると不満なようです。結局、男は自分の都合で育児に参加していることが多いのかもしれない。本来、子育ては子どもが遊びたいときに遊んであげるとも本位であるべきなんですけれど。

仕事一〇〇%、育児一〇〇%なんてできません。仕事をスローダウンすべきなんです、仕事をいい加減にする

ようで正直難しいです。子どもが大変な時に、父親が一緒にできるような、社会の雰囲気、職場の雰囲気が必要だと思います。

仕事も大切だけど、家庭とのバランスを保つことも大切なんです。これから、父親になろうとしている人には、子どもを産むと決めたときから、育児に対する決めたときかなものを持ってほしいです。

男性はもつと女性の声に耳を傾けてほしい。夫婦が一緒に生活していくなかで、その都度向き合って話し合ったり、けんかしたり。いろいろな積み重ねの結果が、夫婦・家族の形になるわけです。

結婚して以来、専業主婦。家事・育児は私の仕事でした。小さい頃から両親に女らしく育てられ、学校でも「良妻賢母」「内助の功」という教育を受けてきたからです。家事も特別好きというわけではなかったし、嫌々でしたが女性がやるものだという認識で生きてきました。地域や社会もそれを求めていたし、私も限界までやってやろうと意地になっていました。

ところが、子どもが大きくなり、社会との関わりを持つようになったとき、家事へのエネルギーが減っていったのです。「主婦の仕事は無報酬で、頑張っても評価はされない」と、社会から取り残されている感じがしました。家族は私をスーパーマンのように思っていたのかしら。私が外に出かけても、家事はやって当たり前なんです。

育児も家事も好きという人はいます。でも、それは自分の価値観。それを子どもや他人に押しつけるのでなく、人それぞれの価値観を受け入れる柔軟な姿勢でいたいものです。

夫はよく感謝の手紙を書いてくれました。たったひとりで元気になるんです。相手を良きパートナーとして、感謝の気持ちを素直に表現することが大切ですね。

女性はスーパーマンじゃないの…

いと、社会から取り残されている感じがしました。家族は私をスーパーマンのように思っていたのかしら。私が外に出かけても、家事はやって当たり前なんです。

育児も家事も好きという人はいます。でも、それは自分の価値観。それを子どもや他人に押しつけるのでなく、人それぞれの価値観を受け入れる柔軟な姿勢でいたいものです。

夫はよく感謝の手紙を書いてくれました。たったひとりで元気になるんです。相手を良きパートナーとして、感謝の気持ちを素直に表現することが大切ですね。



のぶたか 讃岐信孝さん・52歳
(下北手松崎家ノ前)



大里昌子さん・62歳
(八橋大畑二丁目)

あきたエンパワーメントサポートフォーラム

考えてみました。
男女のこれから、秋田のこれから。



二月十日、県民会館で「女と男のパートナーシップ」を考えるフォーラムが開かれました。会場には、約千二百人も人が集まり、熱心に耳を傾けました。
「男女共同参画社会基本法」の策定に関わった、文部科学省生涯学習政策局の名取はにわさんが講演。「日本は先進国の中でも女性の労働力率が低く、子どもの出生率も低い。女性が働きやすい社会は、子どもを生み育てやすい社会」と説明。
また、中高年の男性自殺者が多いことについて、「男性の社会的役割が影響している。経済的に稼げないと男性の意味がなくなると考えってしまうのではないかと、